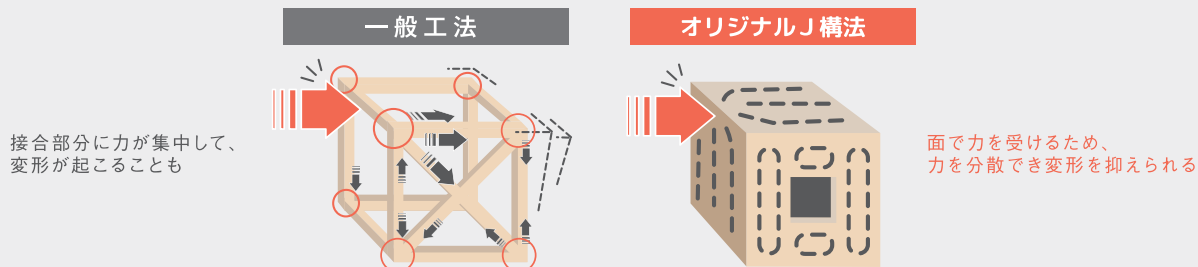


面構造『軸組パネル工法』の住まい

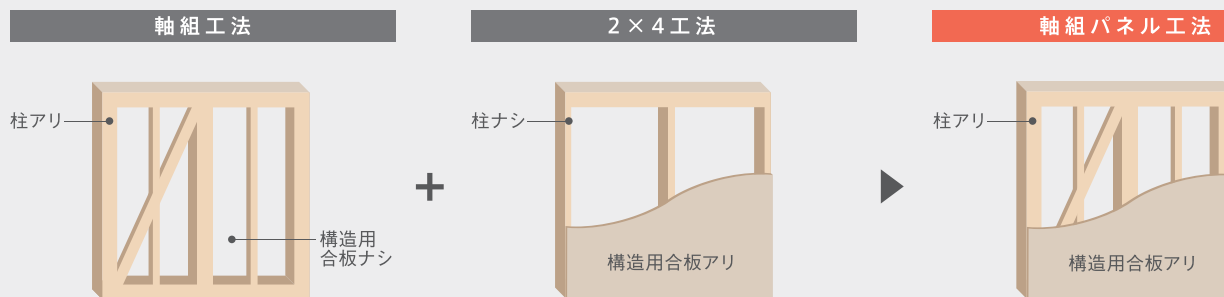
数々の自然災害に見舞われてきた日本。一瞬にして生命が奪われる災害が後を絶ちません。その原因の一つが「地震」です。「阪神・淡路大震災」では、家屋の倒壊や家具の転倒などによる被害が9割を占めました。私たちは、そのような被害を住宅環境を整えることで克服できるのではないかと検証し、納得の「安心感」と確かな「安全性」をお届けしています。

●壁・床・天井を固めた「面構造」だから安全・安心

従来の木造軸組工法が外力を点で受け止めるのに対し、『オリジナル』構法』では外力を面で受け止めるため力を分散でき、高い耐震性・耐風圧性を発揮できます。



●“点（軸）”で耐える軸組工法、“面（壁）”で耐える2×4工法、両方の良さを併せ持つ「軸組パネル工法」

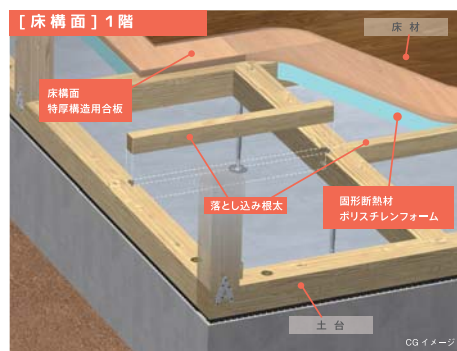
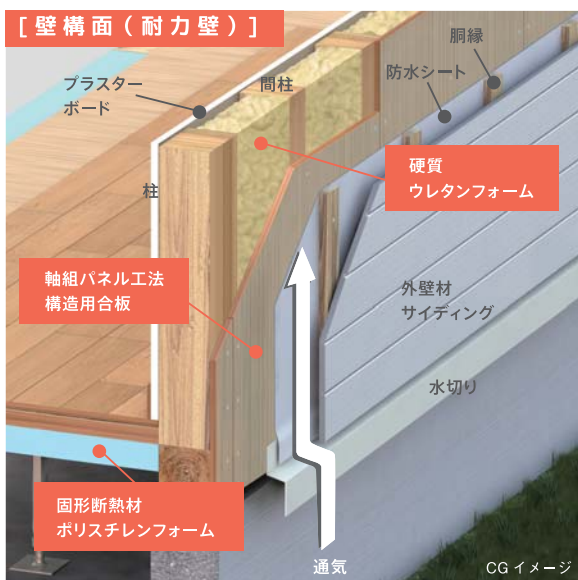


[01]「壁構面（耐力壁）」軸組パネル工法

在来工法といわれる「軸組工法」の概念を打ち破る高い耐震性を発揮するのが「壁構面」を形成する「軸組パネル工法」です。構造用合板を柱や梁という重要な構造材に直張りして住まいを強固に一体化させています。今まで柱や筋かいの一部分で接合していたものが、一体化された壁全面で支えることになるため、耐震性が格段にアップしています。また、壁の強さは地震だけでなく台風にも強さを発揮します。

[02]「床構面」1階床・2階床（3階床）

地震や台風などの外力による建物のねじれや倒壊の危険から防ぐため、床面を補強して「床構面」を形成しています。建物の主要構造部材である梁に直張りすることで、梁を通じて「壁構面」と一体化し、強固な住まいを実現します。地震時、一か所に力が集中してしまった場合でも、強固な「床構面」がその力をバランスよく各所の「壁構面」に伝えて力を分散し効率よく対応します。壁だけを強くする、床だけを強くするというのではなく、建物トータルでより高い安全性が得られるように考えられた住まいが『オリジナル』構法』の住まいです。



[03]「落とし込み根太」1階床・2階床（3階床）

根太は床材を支える部材ですが、一般的な根太は梁の上に転がして釘などでとめられています。その上に構造用合板を施工しても直接梁と一体化していないため、弱い根太部分に被害が発生する恐れがあります。『オリジナル』構法』では、手間をかけて根太を梁に落とし込む「落とし込み根太」とすることで「床構面」を効率よく作用させています。